

背景

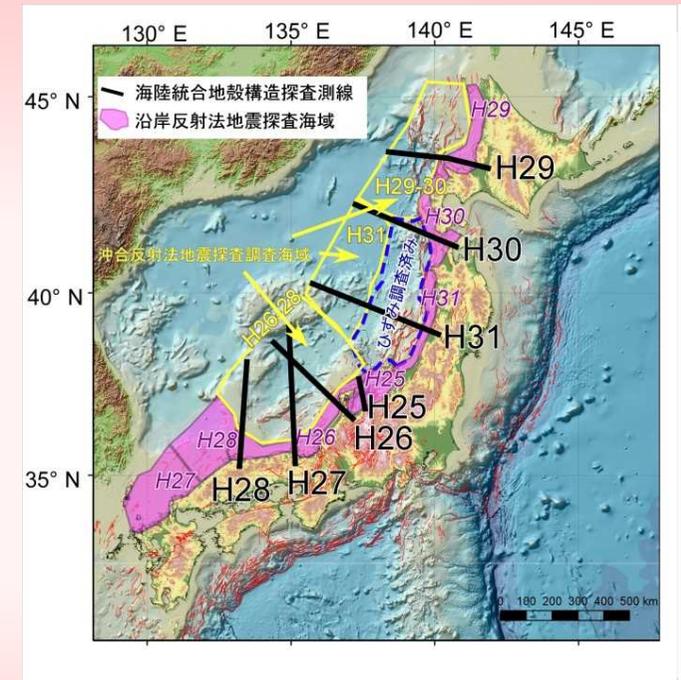
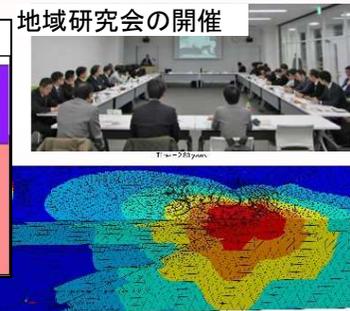
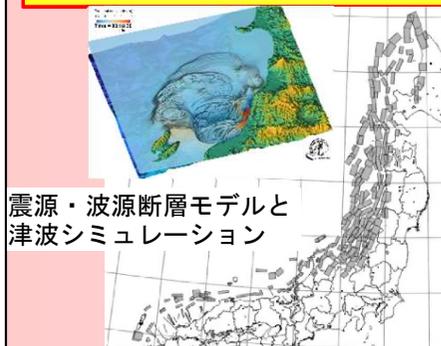
- 日本海東縁部では活断層が複雑に集中しておりひずみ集中帯の重点的調査観測事業(H19~H24)において地震発生モデルを構築するなど調査観測を進めてきたが、**北陸沖や北海道沖は調査未了域**であった。また、**日本海西部では調査観測データが十分でない**状況にあった。
- 日本海側の自治体では、東日本大震災以降、地震・津波の想定を検討が活発に進められていたが、これに必要な調査観測データが不十分であるため、**地域単位で全く異なる基準で想定が進むなどの混乱が生じていた**。
- また、南海トラフや千島海溝付近の海溝型の巨大地震発生前後には、過去に背弧域(下図)において内陸や沿岸部の地震が発生している事例が見られることから、**海溝型地震と内陸沿岸地震との関連性を解明する必要があった**。

概要

日本海側の**地震・津波発生モデルを構築し、地震・津波発生予測を行うとともに、海溝型地震と内陸沿岸地震の関連性を解明する**。これにより、日本海側の地域における**地震・津波想定や防災対策の検討に貢献するとともに、地震調査研究推進本部(地震本部)に資する**。

<調査内容> (事業実施期間:H25~R2(8年間))

- 「**詳細な地殻構造やプレート構造の把握**」(反射法地震探査、海陸統合構造探査)
- 「**津波波源モデルと震源断層モデルの構築**」及び「**津波波高・強震動シミュレーション**」
- 「**海溝型地震と内陸沿岸地震の関連メカニズムの分析**」
- 研究者、自治体、事業者、NPO等が集まり、研究成果を活用して防災対策等を検討する「**研究成果展開のための地域研究会**」の開催



<事業成果>

- 日本海の**波源モデルの構築** (地域において想定可能な津波波高評価)
- 地震発生予測や強震動予測に資する内陸から沿岸までの**震源断層モデルの構築**
- 内陸地震・津波発生の高予測の高度化
- 自治体の**防災力の向上、地元住民の防災リテラシーの向上** 等

※反射法地震探査 → 地下内部の浅い領域を把握
 ※海陸統合地殻構造探査 → 地下内部の狭い領域(直線)の浅深部を精密に把握